



埋文だより

第92号

令和6年2月28日発行

弥生人たちは 何を祈っていたのか



2024.4.17
山ノ口遺跡出土品 146点
県有形文化財に指定されました

展示ケースを譲り受け、エントランス展示を拡充しました。
現在、県有形文化財に指定された、「河口コレクション」のひとつである山ノ口遺跡（錦江町）の出土品を展示しています。
山ノ口遺跡は、南九州の弥生時代を代表する祭祀遺跡です。
北部九州から持ち込まれた赤く塗られた甕形土器やジョッキ形の土器、軽石で作られた男女を象った岩偶などが出土しており、今回その一部を展示しています。この機会に、ぜひ、間近でご覧ください。

目次

- ・山ノ口遺跡出土遺物展示…………… 1
- ・発見！発掘速報（県）…………… 2～6
- ・（公財）埋蔵文化財調査センター現地説明会… 7
- ・自宅で遺跡を見学しよう…………… 8

発見！ 発掘速報

今年度も県内各地で発掘調査を行っています。今回は埋蔵文化財センターの発掘調査成果の一部を紹介します。

大きな建物が建っていたか？ 底に石（根石）が入った柱穴跡が、縦横に並んでいるのを発見！



とらい
一虎居城跡一(さつま町虎居)一

虎居城跡は、鹿児島県を代表する中世山城のひとつで、川内川を利用した天然の要塞です。大前氏により康治年間（1142～1143年）頃に築城され、宝治2（1248）年頃からは、約300年間^{けどういんしぶやし} 禰答院渋谷氏の居城であったと考えられています。

禰答院渋谷氏の滅亡後は、天正8（1580）年に島津歳久が領主となり、慶長5（1600）年、島津^{ただたけ} 忠長が宮之城の地頭として移り、元和元（1615）年の一国一城令が發布された後は、宮之城島津家の家臣の居住地として利用されたと考えられています。

今年度は、中の城と^{まつしゃじょうあと} 松社城跡（主郭）という^{しゅかく} 曲輪を調査しました。中の城の^{くるわ} 曲輪では、多数の建物跡の可能性のある柱穴や、いくつかの焼土（土の焼けた部分）の跡が発見されました。

遺物では、中国から輸入された^{せいじ} 青磁や^{せいかわん} 青花の碗や皿や、薩摩焼などの陶磁器が出土しており、中世から近世にかけての陶磁器が多いことがわかってきました。松社城跡では公園整備に生かすため、過去の調査で発見された庭園を思わせる大石を中心に、調査を行いました。



虎居城跡 空撮写真



白磁皿検出状況



底に根石のある柱穴



上空から（○が根石のある柱穴）



江戸時代にあった立派な塀の跡？

—鹿児島城二之丸跡（鹿児島市城山町）—



鹿児島城二之丸跡は鹿児島市城山町に所在し、
 海拔8mの場所にあります。令和5年8月から10月の3か月間、
 発掘調査を行いました。

調査区の中央に柱穴が列になって見つかりました。建物の柱
 穴跡であれば、縦と横に方形を描くように柱穴が並ぶのですが、
 14の柱穴が一行に並んで発見されたことから、大きな塀があっ
 た可能性があります。今回の調査区の隣接地に、更に柱穴が見
 つかることも見込まれます。柱穴の直径は60～80cmで、柱
 を支えるための根石が入っているものもあります。根石を入れて
 作るほどの柱穴ですから、立派な柱が建っていたことが想像
 されます。柱穴の中にあつた陶磁器から、18世紀後半より古い
 時期に作られたと考えられ、列の横には、並行して並ぶように
 直径20cmほどの小さな柱穴も6基見つかっています。これら
 は、塀を支える補助の衝立棒ついたてぼうのような柱の跡である可能性があり
 ます。



根石が入った柱穴列

また、幅約3mの溝状遺構みぞじょういこうの底面では、細く浅い溝を両側に伴う幅約1mの道のような硬化面こうかめん
 も発見されました。この場所は周囲より低くなっているため、水が何回も流れ込んで砂や泥が堆
 積した跡があり、瓦や陶磁器などが多く検出されています。

他にも30cm×30cm×90cmほどの直方体に加工した石を並べてつくった排水路の跡、丸い
 瓦を逆さにして並べ、水が流れるように作った雨樋あまどいのような遺構なども発見されています。

江戸時代から近代にかけての暮らしがさらに明らかになってくることが期待されます。



石組み排水路



あまどい
雨樋遺構

発見！ 発掘速報

古墳時代に栄えた大規模集落と墳墓



みょうずぼる
—名主原遺跡—(鹿屋市吾平町)—



鹿屋市吾平町^{しもみょう}下名に位置する名主原遺跡は、鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築に伴い、令和4年度から発掘調査を実施しています。その結果、60基を超える^{たてあなたてもものあと}竪穴建物跡など、弥生時代後期～古墳時代前期（AD 1～4世紀頃）の大集落跡が発見されました。宮崎や熊本地域の土器やその影響を受けた土器が出土しており、名主原遺跡に住んでいた人々の交流の様子がうかがえます。また、稲の収穫に使う石包丁や炭化した米、ヒエ、アワ、ドングリ、モモが出土しており、当時の食糧事情もうかがい知ることができます。そのほか、^{てつぶ}鉄斧や^{てつすい}鉄錐、^{かんな}鉋などの工具類や、^{てつぞく}鉄鎌・^{ませいせきぞく}磨製石鎌などの武器類、^{まがたま}土製の^{まるたま}勾玉・丸玉、^{くだたま}石製管玉、ガラス小玉や勾玉などの装身具も出土しています。

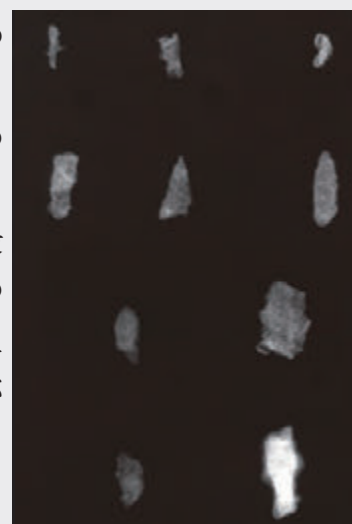
中でも特に注目される発見が2つあります。1つ目は、直径約20mの円形の溝です。円形の溝の中心では、^{もつかんぼ}木棺墓と思われる遺構を確認しました。時期の詳細な検討はこれからですが、弥生時代であれば、県内最大の円形周溝墓、古墳時代であれば県内最古級の古墳になります。溝の中からは、大量の土器が出土しました。中には完形の土器や絵を描いた土器などが出土しており、葬送儀礼や祭祀で用いられた土器の可能性が

あります。2つ目は、鍛冶を行っていた竪穴建物跡です。この竪穴建物跡からは、鉄器製作の際に生じる鉄板の裁断片を含む100点を超える鉄片のほか、鍛冶炉と思われる焼土跡が発見されました。鹿児島では、弥生時代後期～古墳時代前期の鉄器生産の痕跡が、薩摩半島の^{どうぞの}堂園遺跡B地点（南九州市）で確認されていましたが、大隅半島で確認されたのは初めてです。

大隅半島では、古墳時代前期に塚崎古墳群（肝付町）で、古墳時代中期に唐仁古墳群（東串良町）、横瀬古墳（大崎町）などで^{せんぼうこうえんぶん}前方後円墳が築造されますが、弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡と墓域が確認された名主原遺跡は、古墳文化が急速に全国に広まる前後の時期における南限域の社会構造を知るうえで、重要な遺跡と言えます。



絵画土器



鉄片レントゲン写真



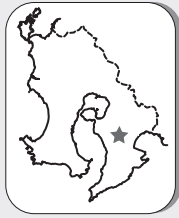
円形の溝検出状況



円形の溝内の土器集中部

遺跡を貫く2つの溝跡

ふたごづか
—二子塚B遺跡（大崎町持留）—
もちどめ



二子塚B遺跡は、大崎町持留に所在し、谷に囲まれた標高約 160mの台地上に位置し、東側の低地には持留川が流れる場所に立地します。

県道黒石串良線地方特定道路整備事業に伴い、令和4年度から発掘調査を行っています。

今回の発掘調査では、縄文時代後期から晩期（約 4,400年前から約 2,400年前）と縄文時代早期（約 9,500年前）の遺構や遺物が出土しています。

縄文時代後期から晩期の遺構としては、立石遺構^{りっせき} 1基や遺物集中1か所^{なみいたじょう}を検出しました。遺物集中は、中岳Ⅱ式土器を伴う遺物が集中して出土しました。

また、時期は不明ですが、溝状遺構を2条検出しました。

1つ目は、昨年度検出した溝の続き^{なみいたじょう}で、波板状遺構（円形や楕円形のくぼみが一定の間隔で並ぶ遺構で、牛や馬が通った痕跡ではないかと考えられている遺構）を伴います。

硬化面が重なるように検出されたことから、道として繰り返し利用されていたものと想像できます。

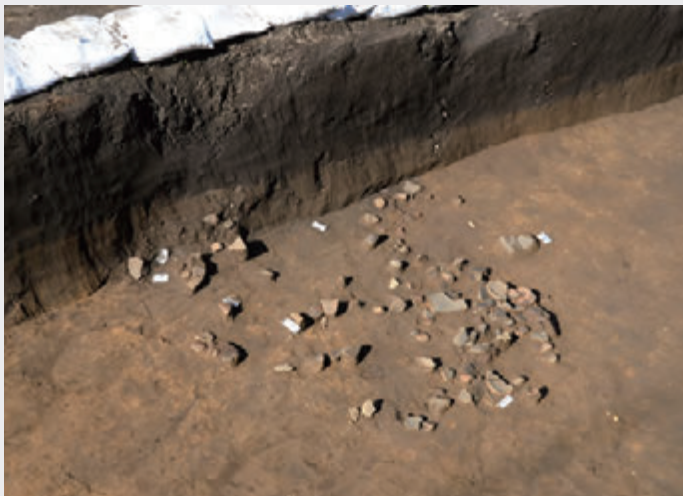
2つ目は、薬研堀^{やげんぼり}（V字状に掘られた遺構）の溝が検出されました。この溝でも、1つ目と同じように、波板状遺構が検出されました。谷へとつながる道として利用されていたのではないかと思います。

土の状況から、その後、現代まで複数回にわたり、使用されていたと考えられます。

さらに、1つ目の溝に掘りぬかれる形で、土坑^{どこう}も検出されました。土坑内で炭化物が出土したことや床面に硬化面が検出されたことから、竪穴建物跡の可能性も考えられます。その他にも、調査区全体から複数のピットが検出され、そのうち、1間×2間の掘立柱建物跡^{ほったてぼしらたてものあと}を検出しました。



溝状遺構（波板状遺構）



中岳Ⅱ式土器出土状況



薬研堀の溝



しもじょうあと

中世の下城跡ピット発見 柱穴か？—下城跡（始良市北山）—



下城跡は、始良市北山の県道 446 号線十三谷重富線を北上した山中にあり、この県道を挟んだ丘陵上に曲輪くるわや空堀からぼり等が良好な状態で残存しています。県道の整備（改良）事業で影響を受けるため、令和5年11月に確認調査を行いました。下城跡は山田じとうの地頭であった梅北国兼が築き、防御したと思われる中世の山城跡で、今回の確認調査では、曲輪3～5に入れたどのトレンチからも、柱穴と思われるピットが検出されました。曲輪や空堀が明瞭に残存し、場所によっては土塁跡どるいも残っています。今後、本調査を実施する計画ですが、より詳細な調査成果が期待されます。



1 トレンチピット検出状況



3 トレンチピット検出状況



だいがんじ

多くの石塔群が残る大願寺跡 —大願寺跡（さつま町柏原）—



大願寺跡はさつま町柏原に所在し、川内川右岸を通る国道 267 号沿いの長岡原土地の北端、標高約 50m の河岸段丘縁辺に位置します。大願寺は、貞治 3 (1364) 年に創建された寺で、辺りを治めていた禰答院氏の菩提寺であり、12 の坊舎がある大変大きな寺院であったとされています。江戸時代初期、禰答院氏の力が弱まるとともに、そのまま廃寺となったと考えられています。

大願寺の鐘撞き堂跡が現在も残っており、その場所にトレンチを設定し調査を行いました。遺構では、大願寺と同時期であると考えられる溝状遺構 9 条と帯状硬化面 3 条、柱穴 1 基、土坑 1 基を検出し、遺物では縄文時代早期・後期、古墳時代の土器や石器、また中近世とみられる火打石や青花が出土しました。残念ながら建物跡は見つかりませんでした。トレンチごとに検出された溝状遺構から当時の土地利用を伺い知ることができました。



3 条の溝状遺構検出状況

現地説明会を開催



(公財)埋蔵文化財調査センターでは、2遺跡の現地説明会を行いました。
まず、令和5年12月9日(土)に、志布志市志布志町帖に所在する野首遺跡のくびで行いました。

野首遺跡では、国道220号日南・志布志道路建設に伴う発掘調査を令和5年5月から行っています。これまでに旧石器時代(約26,000年前)、縄文時代早期(約10,000年前)、古墳時代(約1,600年前)を中心に様々な遺構や遺物が確認されています。

現地説明会ではそれらの成果を説明するとともに、縄文時代早期の多数の集石遺構や地層の堆積状況たいせきなどの説明を行いました。当日は天候にも恵まれ、150人が参加しました。



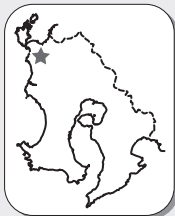
縄文時代早期の集石



縄文時代の土坑



遺跡内の地層の説明



阿久根市波留はるに所在する諏訪ノ前遺跡すわのまえは、南九州西回り自動車道建設に伴い、令和5年5月から令和6年1月にかけて発掘調査を行った遺跡で、令和6年1月20日(土)に、現地説明会を行いました。

発掘調査では、室町時代(約600年前)前後のものと考えられる掘立柱建物跡や溝ほったてばしらたてものあと、江戸時代以降と考えられる炉跡ろあとなどが見つかっています。出土品は古墳時代(約1,600年前)の土器、室町時代～安土桃山時代(約400～600年前)のものと考えられる須恵器すえきや土師器はじき、中国から持ちこまれたやきものの青磁せいじや白磁はくじなどが出土しました。

当日は調査の様子を見学したり、炉跡や溝状遺構、出土遺物の説明を行いました。この日も天候に恵まれ、106人が参加しました。



炉跡の調査の様子



室町時代の溝状遺構

県立埋蔵文化財センター及び(公財)埋蔵文化財調査センターでは、県民の皆様へ埋蔵文化財のことをより広く知ってもらえるよう、各種事業を展開しています。特に発掘調査現場においては、郷土の先人たちの知恵・功績について紹介し、埋蔵文化財に関する理解を深めていただくことを目的とした遺跡公開も開催しています。実施する遺跡や日時については、ホームページ等で随時お知らせします。

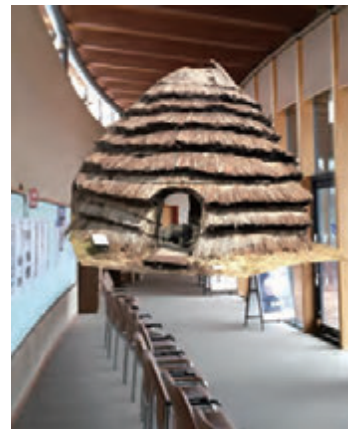
自宅で遺跡を見学しよう (3D・AR 体験)

デジタル技術の発達により、遺跡そのものや、そこで見つかった遺構・遺物を3DデータにしてWeb上で公開・閲覧することが可能になりました。3Dデータにすることで、遺構・遺物を立体的に見ることができ、発掘している遺跡の様子をリアルに感じることができます。

また、AR (Augmented Reality, かくちょうげんじつ 拡張現実) 技術により、上野原縄文の森にある復元住居を、スマートフォンやタブレットの画面内に現実の景色と重ねて表示して、実際に中を見学をしているような体験をすることができます。

以下のQRコードをスマートフォンやタブレット等で読み取り、遺構や遺物を目の前でご覧ください。Webでは、今回紹介したデータ以外も公開しています。アクセスして楽しみください。

- ※ スマートフォンやタブレットのOSのバージョン、機種等によってはご覧いただけないことがあります。
- ※ ARをご覧いただくためには、「STYLY」という無料アプリが必要です。QRコードを読み込むと、インストール画面に移行しますので、案内に従い操作をしてください。



ARで再現された復元住居

復元住居



3D体験



AR体験

鬼瓦 鹿児島城跡 出土品



3D体験



AR体験

当センターは、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで見学できます。入館料は無料です。

当センターのホームページは、鹿児島県 (<https://pref.kagoshima.jp/>) から入るか、「上野原縄文の森」で検索してください。また、フェイスブックは右側のQRコードからお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック



ホームページ



フェイスブック

埋文だより 第92号

発行日 令和6年2月28日
 編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 〒899-4318 鹿児島県霧島市
 国分上野原縄文の森2番1号
 TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
 URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
 E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp